

- GPA特集
- FD講演会開催のご案内
- DVD授業ライブラリーの紹介
- スタッフからひとこと

GPA特集 第2弾

●●● GPAの対象科目について ●●●

前回のニューズレターでは、GPAの概要とねらいについて書きました。今回は『GPAの対象科目について』のお話です。『GPAの対象とする科目／しない科目』については、本学では議論が始まったばかりです。当センターもこれまで散発的にしか発言しておりませんでした。GPA制度を考えるにあたって非常に重要な要素であるため、他大学の状況について調査を開始しました。以下はその中間報告です。



国内の大学では…

GPAを導入している国内の大学では、GPAの対象となる／ならない科目はおよそ次のように規定されているのが普通であるようです。

- (1) 5段階評価で成績をつける科目で、卒業要件に組み込むことができるものはGPAの対象となる
- (2) 編入学または転入学した際の既修得単位認定科目や、資格取得・技能検定等により単位認定されたものはGPAの対象とはならない
- (3) 卒業所要単位に算入されない教職課程・学芸員課程科目などの科目はGPAの対象とはならない
- (4) 合格か不合格かだけを判定する授業科目はGPAの対象とはならない

なかには山形大学や関西学院大学のように(3)の科目をGPAの対象とする例外的な事例はありますが、(1)から(4)はおよそ国内大学でのコンセンサスと言ってよいものと思われる。

国内大学の注目すべき事例

神戸親和女子大学では、英語のようなレベル別クラス編成をしている科目はGPAの対象から外しています。

九州大学では、『GPA算出除外科目』を一覧表にして公開しています(http://www.kyushu-u.ac.jp/student/education/gpa_23.pdf)。除外科目を全く設定していない学部もあれば、学科ごとに科目を指定している学部もあります。ここで指定されている科目の多くは5段階評価で成績をつける科目であるように思われます。

(4)について具体的に科目名をあげている大学はあまり見られません。また、5段階評価の科目を学生が自分の判断で合格／不合格科目として履修する仕組みを採用している大学もあまり見られません。その点で、北海道大学の『自由設計科目制度』は特筆に値します。

自由設計科目制度

(<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/qanda22k.pdf>)

- 学生の幅広い学習への意欲に応えることを目的とする。
- 1年次前期2単位、後期6単位まで、選択科目を学生の判断で「卒業要件に算入しない科目」として履修登録することができ、その科目はGPAからは除外される。2年次以降については、この制度の導入と対象科目は各学部において定める。
- 自由設計科目としての登録区分（登録する・外す）は卒業まで（ほぼ）いつでも変更できる。
- 担当教員には学生が自由設計科目として登録しているかどうかは知らされない。

米国の州立大学では…

今回は、信州大学での制度設計の参考にするため、米国の州立大学を調査の対象としました。調査内容は、5段階で成績評価される科目を学生が自分の判断で合格／不合格科目として履修するオプションに絞っています。合格／不合格科目の各大学での呼び方は、Pass/No-Pass、Pass/Fail、Pass/No Credit、Satisfactory/Unsatisfactory等様々であり、また制度のあり方も実に様々でした。

- たいいていの大学で、大学要覧(catalog)でこのオプションに関する言及がある。
- 学生がこのオプションを使う際には履修指導員(advisor)の署名が必要であるとしている記述が多い。
- このオプションが一学期一科目に限られている大学から一学期6単位まで認められる大学まである。
- このオプションを2科目までしか認めない大学もあれば、45単位まで認める大学もある。
- 仮及第期間中(on probation)でないこと、GPAが2.0以上であること、既修得単位数を24や30等と指定する等、このオプションを使う際に課せられる

条件がある場合も見られる。

- このオプションを申請/変更する期限については、授業開始後1週間から15週目まで様々見られる。
- 必修科目はこのオプションの対象外であるとする大学もあり、また一般教育科目のうち必須科目的なものをこのオプションの対象外とする大学もある。

また、学科が指定する合格/不合格科目に関する言及もあり、5段階評価になじまないものとして、スキルをつける授業、就労経験、学問より方向付けや意識付けに重きが置かれるもの等という説明がなされています。

さて本学では？

この調査は今後も継続していきます。大学別の情報については当センターのウェブサイト (<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/rche/>) に順次アップしていきます。本学のGPAのあり方について議論する際に資料として活用していただければ幸いです。



2011信州大学FD講演会を開催します【12月6日(火)15:00~17:00】

2011信州大学FD講演会(主催:高等教育研究センター/共催:全学教育機構)

大学教育における書くこと~苦手になるメカニズムと教育的対応について~

●日時:12月6日(火)15:00~17:00

●会場:学生会館3階大会議室(松本キャンパス)

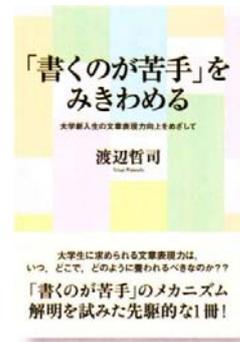
※SUNS配信あり→ 教育学部:図書館2階視聴覚室/工・農・繊維学部:各SUNS会議室

「書けない」あるいは「書くのが苦手」な学生たちに対して、大学としてどのような教育的対応をしていけばよいのか、ということは、初年次教育だけではなく学士課程を通じての大きな課題となっています。そこで、『「書くのが苦手」をみきわめる』の著者である渡辺哲司氏を講師に迎え、「書くのが苦手」のメカニズムや調査・分析結果の紹介、「脱苦手」を目指した授業の実践例について講演をしていただき、今後の「書くこと」の教育について考える機会とします。事前申込みは不要ですので、当日お気軽にご参加ください。



●○講師紹介●○渡辺哲司氏

現職:文部科学省初等中等教育局教科書調査官。東京大学大学院教育学研究科修了。専門は「発育・発達学(子どものからだ)」。開成高校非常勤講師、九州大学アドミッションセンター講師、同高等教育開発推進センター准教授を経て、現在に至る。九州大学在職中は、AO入試や初年次生向けの授業を担当。その中で、大学新入生が抱く、文章表現に対する「苦手感覚」に着目し、その研究に取り組み、教育の実践において大きな成果をあげている。その成果報告として、2010年に『「書くのが苦手」をみきわめる。大学新入生の文章表現力向上をめざして』(学術出版会)を出版し、大学初年次教育に新たな視点を示している。



DVD授業ライブラリーをご活用ください!

お知らせ

高等教育研究センターでは、高等教育に関する様々な書籍・資料を備えており、学内の皆様にご利用いただけるようにしております。これらのリストは、センターのウェブサイト(トップページの「蔵書リスト」から検索可能です)にありますので、ぜひご利用ください。今回は、下記のDVDをご紹介します。



●○神奈川工科大学「DVD授業ライブラリー」●○

本ライブラリーは、神奈川工科大学教育開発センターにおいて、約10年をかけて授業改善のために収録されたものをまとめた第1段・DVD50枚のセットです。50枚のDVDは、「わかりやすくてももしろい授業」と評判の全国の大学・短大の50の授業を収録したものです。登場するのは、所属長などから推薦されたり、学内の「ベストティーチャー」などに選ばれた教員の方々です。その内本学からは、医学部2名、工学部1名の授業が取り上げられています。収録内容は、教員別に90分間の授業風景、指導方針などを語るインタビューです。

なお、著作権者である神奈川工科大学教育開発センターとの取り決めで、本DVDの複製等は禁止されており、ネットでの配信等ができません。皆様には、現物をお貸しすることになります。この点、ご不便をお掛けしますが、是非ご利用ください。(利用をご希望の方は下記までお問い合わせください。)

スタッフからひとこと

研究・調査・入れ込みの対象は次のものです。

1. 高等教育関係(とりあえずGPAを中心に)
2. 言語学関係(言語学から機械翻訳精度向上に寄与することを目指して)
3. 松本山雅FC(とりあえずなんとか昇格してください)

(教授 加藤 隼三)

